



いまこそ集落創生

第2回 板橋地区



1_板橋野から見た地区の全景。後ろには鳥海山が美しく映える 2_観音様のほか地区内には3つの神社がある 3_地区総出で実施している花いっぱい運動 4_子ども達のお宮掃除は夏の行事として恒例となっている

町中心部から車で約10分。町の形を顔に例えれば、ちょうど鼻の部分に位置する板橋地区。地区の西側は真室川町に接しています。谷口銀山が栄えた頃、搬出・運送の通り道だった当地は多くの人が往来していたそうです。当時の移動手段はもっぱら馬。鞭として使用していたヤナギを、たまたま当地の道端に挿したところ、根付きがとても良かったことが、入植のきっかけとも言われています。

「子育ては地区ぐるみで」がモットーの板橋地区。しかし、当地区も例外ではなく少子高齢化が待ったなしの状況です。そんな中、町外から嫁いだ方の「地区内の関わりが少なくて寂しい」というささいな思いに端を発し、昨年11月に「話を聞く会」を開催。「二組の若夫婦を含め15名で話をした。地区の振興を深めようという思いが強まった」と高橋副区長は話します。

これを受け今年6月、「世代間交流会」を開く予定。板橋地区では初の試みとなります。副区長は「老若男女、地区の誰しもが顔と名前が分かるように改めて自己紹介から始めたい」ともくろみ、住民の距離が近くなることで生まれる多くの可能性を語ります。特に役立つのは防災面。どこの家に誰が住んでいるかが分かれば、有事の際にスムーズな避難が可能です。

現在、三浦悟さんを中心に、地区の歴史をデータとして取りまとめているそう。地区に住む約200名のうち、高校生以下は12名。先代より受け継がれてきた伝統をこの子たちに残すことはとても大切なことです。板橋地区に生まれ育ったことを、誇りに思うきっかけとなることでしょう。

編集 幸記

▼今月の特集は町立金山診療所の小児医療について。瀬尾副所長が実際に子ども患者さんを診察しているところも取材させていただきました。動きのあるおもちゃなどでリラックスさせながら笑顔で診察。帰り際にはシールをプレゼントすることで良い印象で帰ってもらおう。子ども達が嫌にならないような工夫がなされています。アンケートには「親身になってもらい信頼している」などの声も。最も身近な小児科として、利用者が増えることを願っています。(つま)

金山町の人口は、5,615人 (3月末現在)

	男性	2,719人 (-26)
	女性	2,896人 (-14)
	世帯数	1,764世帯

▼3月の異動

出生	2人
死亡	6人
転入	16人
転出	52人